

実習3 拡大読書器

福岡視力障害センター支援課 山田信也
東北文化学園大学医療福祉学部 小野峰子

1. 視覚補助具の中の拡大読書器

拡大読書器はもとより、光学補助具(光学系を用いる眼鏡、拡大鏡など)と、非光学補助具(光学系を用いない電子デバイス、拡大コピー、タイポスコープなど)の活用にあたっては、視野を始めとする視覚機能の意識化が重要で、まず手の届く範囲の主導権の回復が求められる。

そのため、とりわけ保有視覚の中で使える視野の位置を理解し、各種の補助具を使う際の眼の使い方を体得することで、より長時間の使用が可能となる。そこで、①拡大読書器画面の左右、上下の枠を利用して、保有視覚に合わせて眼を固定すること、②楽な姿勢で見るために、椅子の調整、画面の高さの調整、画面の角度の調整方法、③XYテーブルの動かし方についてのコツについて述べた。

2. 拡大読書器使用時のポイントの実際

今回、読字・書字が十分にできる据置型拡大読書器の使用時のポイントについて幾つかの点を説明した後、実際の課題を通して、拡大読書器の使用方法、患者さんに説明するための方法について述べた。

まず、拡大読書器を利用するにあたり、ページオリエンテーションをするための教材(横・縦)を使用して、XYテーブルの動かし方について体感することとした。次いで、拡大読書器操作に慣れるための白黒、白黒反転教材を活用して、短い文章読字する際の動かすコツについて説明、実体験をしてもらった。

更に、拡大読書器を用いた書字体験として、「点線なぞり」、「模写」、「枠内に文字を書く」等の体験をした。

いずれの体験も疑似体験用ゴーグルを基に「中心暗点」、「求心性視野狭窄」、「混濁」のそれぞれの問題点を考え、いかに対応するかを体感的に学ぶ機会とした。